



2022 令和4年 3

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。お問い合わせ・ご意見は狛江市政策室へ

発行 ● 狛江市政策室  
〒201-8585 狛江市和泉本町1-1-5  
☎3430-1111 FAX3430-6870  
Email=wacco@city.komae.lg.jp

編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press  
〒201-0003 狛江市和泉本町1-35-3  
ル・ミリオン・イイダ3階A号  
☎3430-6617 FAX3430-6743

## 障がい児・者に向け音楽療法

### 特定非営利活動法人 みんなの広場「若葉」

特定非営利活動法人みんなの広場「若葉」(高橋美和子理事長、岩戸北1-1-1-416 ☎3488-3048) は、知的障がい児・者を対象とする音楽活動中心の能力開発と、学習成果を発表する場を提供することによって福祉の増進を図り、障がい児・者の価値創造と社会貢献に寄与することを目的としている。

高橋さんによると、同会は市内に住む元養護学校教師が昭和56年に自宅を開放しダウン症などの障がい

者をカリキュラムに取り入れて発達を促す先進的な療育活動を行っていた「鳩笛リズム教室」が母体という。自身もダウン症の子を持っていた高橋さんは58年から「鳩笛リズム教室」に親子で通っていたが、2年後に子どもが亡くなった。その経験から早期療育の大切さを身をもって感じ、わが子を亡くした後もボランティアとして教室を手伝っていた。しかし、主宰者が高齢になり平成14年に教室を閉じたため、療育現場をなく



グループで音楽演奏を楽しむ



▷12◁

リズム体操などで体を動かしたり、歌を歌ったりして自己表現をする。また、月1回、市内の貼り絵作家によるアート制作なども行っている。

した複数の保護者から依頼された高橋さんは、同年に活動の一部を引き継ぐかたちで「みんなの広場『若葉』」として発足、22年に特定非営利活動法人になった。

活動内容は、月3回、土曜日に南部地域センターへ音楽療法士や保育士などの資格を持つ人と障がい児・者が集まり、キーボードやトーンチャイム、マラカス、太鼓など様々な楽器を使い、

## 楽器を演奏する喜びを多くの人に

### 一般社団法人 フィギュアノート普及会HappyMuse

一般社団法人フィギュアノート普及会HappyMuse(松田真奈美代表理事、西野川4-34-7 ☎090-1859-0070) は、楽器を演奏する喜びをたくさんの人に届けようと、フィンランドで開発されたフィギュアノートを日本に紹介し、楽譜の開発や提供を行い、幼児から高齢者まで幅広い世代の対象者に音楽療法的活用

を含む楽器演奏活動に役立てられることを目的としている。フィギュアノートに関する調査・研究、広報、文化、講演会・研修会など幅広い普及活動を行っており、平成27年に一般社団法人になった。

フィギュアノートは楽譜の読めない人でも簡単に楽器が演奏できるようにフィンランドで開発されたもので、

音の高さや長さを単純な色と形で表したもので、発達障がいなどの人にもわかりやすいのが特徴。

音楽療法士でもある松田さんは、市内の特別支援学級の児童にフィギュアノートを使ったトーンチャイムによる演奏などを指導している。

また、平成30年にはフィンランドから来日した障がい者の合唱団を招いて市内でコンサートを催し、国際交流にもひと役かった。



フィギュアノートによるピアノ演奏 (写真提供: フィギュアノート普及会)

同会では音楽教育・音楽療法・福祉・保育などの指導者などを対象にしたベータシックインストラクター研修会や体験会などを催すほか、電気通信大学と共同でフィギュアノートを使ったアプリの研究開発にも取り組んでいる。

## 幼児向け音楽教育の指導者を養成

### 一般社団法人 日本音楽教育協会

一般社団法人日本音楽教育協会(吉田千香代表理事、岩戸北3-15-2 ☎6754-6697) は、幼児に対する音楽を活用した能力開発普及活動を行っており、主に幼児教育を行っている幼稚園教諭や保育士、音楽教室主宰者を対象に講座を開き、これまで100人以上が講習

を受けた。吉田さんは東京音楽大学出身で打楽器奏者として内外で演奏するほか、リトミック教室の講師や私立中学校の非常勤講師を務めた経験を生かし、市内で乳幼児を対象とするリトミックを取り入れた音楽教室を開いた。科学的根拠に基づいた幼児

に向けた教育プログラムの研究を続け、約10年かけて音楽教育のカリキュラム「おといく指導員講座」を完成させるとともに、平成29年に一般社団法人として普及活動を始めた。

講習は、子どもの発達段階に合わせた感情のコントロール、他者との関わり方、言葉を感じる訓練と運動神経を



おといく指導員講座 (写真提供: 日本音楽教育協会)

育む打楽器活用のカリキュラム、オリジナルの伴奏曲を伴った絵本の読み聞かせなどで、生演奏をモットーにしているのが特色。吉田さんら講師が受講生一人一人と向き合いながら指導している。

## 地域情報をネットや印刷物で発信

### 特定非営利活動法人 k-press

特定非営利活動法人k-press(安永能美理事長、和泉本町1-35-3ル・ミリオン・イイダ3階A号 ☎3430-6617)は、市民による市民のための地域メディアをめざしてインターネット新聞k-pressの運営をはじめ、狛江市が発行する月刊の市民活動・生活情報誌

『わっこ』の企画・編集・制作、川崎フロンターレの写真情報誌『川崎フロンターレnow』の発行などを行っている。

同会は、狛江市で創刊された地域情報紙の記者2人に加え狛江市、川崎市の公務員OB、大学教授などが集まり、地域に住む人によ

って発信・運営するインターネット新聞を平成



Jリーグの試合を撮影するk-pressのカメラマン (左)

15年にスタート、学校や公共施設などに掲示するポスタータイプの情報誌『川崎フロンターレnow』を創刊した。16年に特定非営利活動法人の認定を受け、同年に『わっこ』の臨時号を編集したのをきっかけに、翌年か

ら企画・編集・制作を担当している。

インターネット新聞と『川崎フロンターレnow』には市民ボランティアが参加、Jリーグの試合の写真撮影、季節の花やイベントの情報などを発信している。

## 地域課題の解決へ6法人が連携

### 狛江市社会福祉法人連絡会

狛江市社会福祉協議会(☎3488-0294)狛江市社会福祉協議会内狛江市社会福祉法人連絡会担当)は、市内にある社会福祉法人が、各法人の専門性を生かし、住民とともに地域課題を解決するため、連携して地域公益活動等に取り組み、住みやすく安心して暮らせる地

域作りの推進を目的として、平成30年に発足した。

現在、狛江市に事業所を置く社会福祉法人のうち、社会福祉法人狛江保育園、社会福祉法人光友会(ひかり作業所)、社会福祉法人雲柱社(虹のひかり保育園)、社会福祉法人狛江福



フードバンク狛江へ食品を寄贈

社会(こまえ苑)、社会福祉法人正吉福祉会(こまえ正吉苑)、社会福祉法人狛江市社会福祉協議会の6つの法人が参加している。

会では、「福祉なんでも相談」を各法人の窓口の開

設し、地域住民の相談に応じている。

昨年から特定非営利活動法人フードバンク狛江に協力、各施設の利用者から定期的に食品を集めており、ことし1月は約74kgを贈った。

同会では、今後は福祉の最前線に立っている各法人がさらに連携して活動を深め、市民の要望に応えたいとしている。